

http://www.minamih.net/



13・3・23 (土)
南NEWS NO74

BEST 4 頑張った!! 16チーム 第20回ピーナツカップ争奪

秦野市招待少年サッカー大会

2月16日&17日@秦野市なでしこ広場

子供達ががんばってくれました。

16チーム中で4位は立派だと思います。

優勝した南ヶ丘、強豪エスペランサともに、五角の戦いでした。

相田コーチ、小松コーチ、帯同サポートありがとうございました。

○めあて コーチング ドッジング 渡り廊下 パスアンドムーブ

◆予選リーグ：D組 2位通過 (2勝1敗)

・南八王子1-0 FCエスペランサ 得点者：福岡君

・南八王子0-3 鶴巻ドラゴンズ

・南八王子1-0 秦野FC 得点者：工藤君

◆決勝トーナメント：

・1回戦：南八王子2-1 渋沢 得点者：五島君、福岡君

・準決勝：南八王子0-2 南が丘

◆3位決定戦：

・南八王子0-1 FCエスペランサ

2日間で緊張感のある計6試合を戦いました。いずれも僅差の接戦の試合ばかりでした。特に、秦野戦、渋沢戦では終了間際の劇的ゴールを工藤君、福岡君が決めてくれました。

準決勝、3位決定戦では、負けはしたものの、攻撃面ではDF裏を狙ったクロス、渡り廊下での縦パス、オーバーラップと意図のあるプレー、パスが何度も見られました。



DF陣を中心にしたコーチング、1対1でのフェイント、ファーストラップの位置も上達しています。

守備では第一DFのアプローチの遅さ、浮き球処理、セットプレーでのヘディングに課題があります。

優秀選手は、抜群のドリブル、試合を決める得点をあげた福岡君。

サイドバックとしての的確なポジショニングや1対1で成長が見られた米蔵君が受賞しました。

個人、チーム共に成長が感じられた収穫の多い大会でした。もっともっと高いレベルを

目指そう!!まだまだ伸びる力はあるよ。

by 中野コーチ

きさらぎ杯中央大会 少女5年生以下の大会

(2/23、2/24 駒沢公園第2球技場、第1球技場)

○南八王子0-0 バディホワイト

○テーマ 1対1で負けない。ボールを奪われたら取りかえす。

前半、相手の早いプレッシャーにも負けないで、ドリブルとパスを使ってよく攻めていました。ただシュートがありません。ディフェンダーをかわしているのにシュ

ートをしない。シュートをしてもしュートが多い(シュートを打つタイミングが遅い)のでディフェンスにカットされてしまう。もっとシュートを打つかたち(タイミング)を身体で覚えてほしいと思います。

人工芝ということもあったのですがパスが弱く、相手にカットされピンチになる場面が何度かありました。そんな中でセンターバックの小沢さんが1対1になる場面で気迫と冷静な判断で失点を許しませんでした。試合終了間際ポストにたすけられたシュートがありましたが、ピンチをしのぎ切り引き分けとなりました。

by 斉藤コーチ

○南八王子1-5エスペランサ 前半0-2 得点者 井上さん

○テーマ 1対1で負けない。ボールを奪われたら取りかえす。

この試合は南八少女には良い経験になる試合でした。また弱点が出てしまった試合でもありました。

前半、相手コーナーキックをオンゴールで失点するとそのままずるずると消極的なプレイとなり、ディフェンスラインが下がり守りいっぺんとうになってしまいました。それまではディフェンスラインで右から左、左から右とボールをまわして攻撃につなげていたのに残念です。前半の2点目の失点もゴールキックをカットされそのままドリブルで持ち込まれての失点でした。

後半もっと前でボールをキープして得点チャンスを作ろうと平山さんをトップにいれました。後半3分に味方の縦パスを前線で平山さんがボールをキープして上がってきた村田さんへスイッチ、そのボールを村田さんが井上さんへスルーパス。これを井上さんが決めて1対2としました。

反撃ムードで盛り上がったのですが直後、左サイドをドリブル突破され失点しました。これからという時でしたので痛い失点でした。その後は前半と同じでずるずる下がるいっぺんとうです。それにボールウォッチャーになってしまい失点を重ねてしまいました。

失敗を引きずらない。得点した後のプレイへの集中。これは1人ではできません。

11人声をかけあいながら気持ちを1つしなないとできません。

この試合は良い経験として次の目標に向かって切り替えましょう。

by 斉藤コーチ

○南八王子0-2 KAISHIN 前半0-1

○テーマ 1対1で負けない。ボールを奪われたら取りかえす。

勝てば2位パート決勝トーナメントに進出の可能性のある試合でした。ボールキープ力、ドリブル力、パス展開力はほぼ五角の展開だったと思いますが、最後のゴールを奪う気迫の差が得点差となりました。相手の2得点いずれもゴール前の混戦を詰められてしまったものですが、ここがチャンスを思った場面で多くの相手プレーヤーがペナルティエリアにいたのです。逆にこちらの攻撃は、ペナルティエリアまで行くものの、薄い攻撃となりシュートまでなかなか持ち込めませんでした。

大きな期待を持って臨んだ大会でしたが、まさかのリーグ戦最下位。この結果を直に受け止めたいと思います。大会に臨んだ他のチームの試合も見ましたが、それほど大きな力の差を感じませんでした。

ただ、この1年間を見てきて、いろいろなことができる子とできない子の力の差が大きくなってしまったように感じました。特に1対1は最優先課題で取り組んできましたが、未だにボールキープが甘い選手がいます。もっとも大切な技術なので、しっかりと全員が身に付けて欲しいと思います。

by 田コーチ